

平成 28 年度

第 61 回 長野県中学校連合教科研究会

# 国 語 科

I	研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	趣 旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
III	参加校テーマ一覧と参加者氏名・指導者氏名・・・・・・・・	1～2
IV	研究問題と協議内容・・・・・・・・・・・・・・・・	2～7
V	本年度研究会の反省と来年度の方向・・・・・・・・	7～8
VI	あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・	9

## I 研究テーマ

生徒が主体的に学ぶための、単元を通して言語活動の設定・充実はどのようにしたらよいか

## II 趣旨

つける力を明確にした言語活動、そして、生徒が必要感をもって主体的に取り組むための支援について、各校の具体的な実践を持ち寄り、活発に意見交換をすることで、互いに学び合える場としたい。また、授業展開や教材化の可能性、評価のあり方など、これからの研究や実践の方向性が見える会としたい。

## III 参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名

### 第1分科会

・指導者	東信教育事務所指導主事	小野澤 健 先生
・司会者	王滝村立王滝中学校	山口 学 先生
・記録者	小布施町立小布施中学校	松林 圭祐 先生
・世話係	信州大学教育学部附属長野中学校	戸塚 拓也
学校名	研究の要旨	
川上中学校	「漢文から日本と中国の言葉のつながりを知る。」(中1「今に生きる言葉」)	
諏訪南中学校	「仲間と関わり合いながら、読みを深め、自分の考えを表現できる国語学習の指導。」(中2「モアイは語るー地球の未来ー」)	
穂高東中学校	「短歌を味わい想像したものを、根拠をもって自分の言葉で表現する力を高める指導のあり方。」(中2「短歌を味わう」)	
小布施中学校	「言語力を高めるために、互いの考えを聞き合い、自らの読みを深めていける指導のあり方。」(中3「作られた『物語』を超えて」)	
附属長野中学校	「古典に親しみながら自分の考えを豊かにしていく力を高める指導のあり方。」(中2「まいにち、兼好法師!」)	
附属松本中学校	「わたしの読み解きの変容を自覚することのできる国語の学習。」(中2「アイスプラネット」)	
赤穂中学校	「ICT機器を利用して、アクティブラーニングの視点を取り入れた説明的な文章の単元の実践。」(中3「月の起源を探る」)	
	中澤 茜	
	中村 知浩	
	多田 彩夏	
	松林 圭祐	
	戸塚 拓也 松崎 美桜	
	北川原美生紀	
	上條 祐輔	

### 第2分科会

・指導者	中信教育事務所指導主事	千野布美子 先生
・司会者	松本市立清水中学校	高橋 加奈 先生
・記録者	南牧村立南牧中学校	矢崎 貴臣 先生
・世話係	信州大学教育学部附属松本中学校	上條 春城
学校名	研究の要旨	
北御牧中学校	「『書けない生徒』に何を伝えるべきか～新聞スクラップ作文指導を通して～」(中3「新聞スクラップ作文」)	
西箕輪中学校	「仲間と関わり合いながら主体的に取り組み、読みを深めたり、伝える力を高めたりする国語学習のあり方。」(中1「思わず読みたくなるポップを作ろう」)	
塩尻中学校	「根拠を明確にして話したり、友達の考えを聞いて再考したりしながら、自分自身の考えをまとめていく話し合い活動の工夫。」(中1「エコキャッチフレーズでココロもキャッチ!～根拠を明確にして話し合おう～」)	
鬼無里中学校	「根拠を示しながら、自分の考えを伝え合う力を高める指導のあり方。～根拠となる叙述を自分で選び、考えを述べることに関わって～」(中3「説得力のある文章を書こう」)	
	藤森 祐介	
	吉村 秀平	
	山田 綾子	
	宮澤 朝子	

附属長野中学校	「古典に親しみながら自分の考えを豊かにしていく力を高める指導のあり方。」（中2「まいにち、兼好法師！」）	小林 達也
附属松本中学校	「わたしの読み解きの変容を自覚することのできる国語の学習。」（中2「アイズプラネット」）	上條 春城

### 第3分科会

・指導者	南信教育事務所指導主事	富山 哲矢 先生
・司会者	塩尻市立塩尻西部中学校	佐々木清一郎 先生
・記録者	川上村立川上中学校	遠山 恒輝 先生
・世話係	信州大学教育学部附属松本中学校	阿部 考彰
学校名	研究の要旨	
川上中学校	「言葉を追究し、言語力を高めていく指導のあり方。～ことばを追究するグループ学習の場面を通して～」（中2「方言と共通語」）	遠山 恒輝
東御東部中学校	「生徒が意欲をもって、文章を論理的に読み取る力を身につけるための指導のあり方。」（中1「大人になれなかった弟たちに……」）	高橋 芽衣
穂高西中学校	「友とのかかわりを通して自分の考えを深めていく国語の授業づくり。」（中2「新しい短歌のために・短歌を味わう」）	奥原 萌
広徳中学校	「課題に粘り強く取り組み、主体的に学び合う国語教室のあり方。」（中3「行書を深めよう」）	鷺澤 拓治
附属長野中学校	「古典に親しみながら自分の考えを豊かにしていく力を高める指導のあり方。」（中2「まいにち、兼好法師！」）	坂口 香織
清水中学校	「根拠を明確にして考えを深める授業づくり。」（中1「ちょっと立ち止まって」）	阿部 裕一
附属松本中学校	「わたしの読み解きの変容を自覚することのできる国語の学習。」（中2「アイズプラネット」）	阿部 考彰

## IV 研究問題と協議内容

### 【第1分科会】

#### 討議1 生徒が古典に親しむ指導の在り方

##### 1 レポート発表

- (1) 初めて漢文に触れる生徒が、現代語訳では表記されない助字に注目するために、文の形態の対照表や辞典を利用した、協働的なグループ学習の在り方を追究した実践。（川上中）
- (2) 古典に表れる人物像を学ぶ学習で、古典の舞台である過去と学習者の現在を結び付けるために、叙述を根拠に「理想の友人像」を明らかにしていく実践。（附属長野中）

##### 2 協議

- (1) グループ編成は生活班にこだわらず、生徒の実態を明らかにして目的に即した編成としたい。故事成語が「今に生きる言葉」と気づけるように他の故事成語を調べる学習も大切にしていきたい。
- (2) 本研究のように、国語の授業「で」生徒が考えを豊かにしていく実践をしていきたい。作品の読解だけの国語「を」学ぶ時間にしない課題追究型の学習を大切にしていきたい。

##### 3 指導者の先生のご指導

古典学習では学年に応じて、知識や生活経験を活かした「触れて、楽しんで、親しむ」授業を実践したい。古典読解のみに終始するのではなく、子どもたちの国語力が涵養できる授業を目指したい。

#### 討議2 友と関わり、自らの読みを深めていく指導の在り方

## 1 レポート発表

- (1) 説明的文章を意欲的に読むために、読解内容をプレゼンテーションするという目的意識を持つ単元を設定することで、友と関わりながら読みを深め、考えを表現できる指導の在り方。(諏訪南中)
- (2) 説明的文章を読んで自分の意見をもつために、互いの考えを聞き合い課題解決に向かう意見交流を設定することで、叙述を根拠に自らの読みを深めていける指導の在り方。(小布施中)

## 2 協議

- (1) プレゼンテーションで読む必要感をもてたのがよい。発表を目的とする際、読み取りが不足しないように、付けたい力が何であるか明確にしておく留意が必要。
- (2) 生徒の主体的な読み手としての力を伸ばすためには、正しく読むことと、説得力のある論を立てることを大切にしたい。1.2年生から取り組むと、3年生で意見が深まっていくのではないかと。

## 3 指導者の先生のご指導

グループ学習では、まず個人で意見をもつことが大切。話し合いたいことがあると主体的な話し合いになる。適宜振り返りの場を設けることで、生徒自身が読みの深まりを確かめられるようになる。系統的な学習を積み重ねていくために、生徒のどんな姿と出会いたいのか、具体的に設定しておきたい。

### 討議3 単元を貫く言語活動やICT機器の利用で生徒が考えの深まりを感じられる指導の在り方

#### 1 レポート発表

- (1) 文学的文章の題名の理由を学習する際に、生徒が観点を決め出して追究し、交流の場を設けることで、読みの変容に気づくことができる授業の在り方。(附属松本中)
- (2) ALを実践するために、ICT機器や振り返りシートを活用することで、自己対話や他者対話、課題の共有を生み出し、主体的・協働的な学びを成立させる授業の在り方。(赤穂中)

#### 2 協議

- (1) 読書経験を学習の動機付けにすると、家庭事情によって学習の差が生じる可能性がある。既習内容の導入が望ましいのではないかと。国語科は、生徒が主体的に言葉を味わえる言語生活者としての力を伸ばしていく責任がある。本研究は、今後の読書が主体的な読みになる意欲的な実践と言える。
- (2) 説明的文章は、論が順序立てられており要約や要旨は難しくない。他作品と構成を比較して読む授業も面白いのではないかと。ALとは、生徒にとって必要感のある授業のこと。説明的文章では、構成を「どう使うか」という一般化した課題を据えることで、ALになるのではないかと。

#### 3 指導者の先生のご指導

ICT機器の活用は、それぞれの環境で何ができるかということと、どんな力をつけるのかということ念頭に置いて授業をしたい。ALには思考力を発揮する問いが必要である。単元を貫く言語活動で、生活経験や自分と友の意見の比較、表現したいという生徒の願いを見取り、学んできた知識を総動員する構成を大切にしたい。

### 討議4 詩歌を味わい自分の言葉で表現するための指導の在り方

#### 1 レポート発表

- (1) 韻文で作者の思いを学ぶ際に、五感で作品を鑑賞することで、作者の思いが込められた言葉一つ一つに意見をもてる授業の在り方。(穂高東中)

#### 2 協議

- (1) 単元を貫く言語活動は、書く授業か、読む授業か、評価の基準を明確にしたい。短歌や俳句、詩歌では言葉を根拠に風景や背景を正しくおさえる。情景は読み手の自由さがあっていい。創作によって、自分の言葉の貧しさや伸び代を自覚できる。そして、作者の言葉の豊かさを味わえる。

#### 3 指導者の先生のご指導

五感で短歌を味わうというのは、生徒が言葉を味わうための素晴らしい観点。自分の読みと作者の読みを比較してみることで、解釈にズレが生じる。そこに作者の表現の豊かさや巧みさに意見をもつことでさらに読みが深まる。教師は、生徒の読み味わったものを大切にする姿勢を大切にしたい。

## 討議5 日頃の悩みや課題についての意見交流

### 1 指導者の先生のご指導

中学校の教師は、教科の専門家である。教材研究や生徒との対話、そしてICTや学習カードなど教具の研究を大切にしていきたい。本研究会では、多様な研究方法や教育観が交流できた。日々の授業で、子どもたちの学びを丁寧に捉えることを大切にしていきたい。

(文責者 小布施町立小布施中学校 松林圭祐)

### 【第2分科会】

#### 塩尻中：話すこと・聞くことの単元設定と評価の工夫

##### (1) レポート発表

エコキャッチフレーズを考える場面で、実際の学校経費を提示した。そのため、必要感のある学習課題となった。本時では、生徒が根拠を明確にするために「～から」「～ので」という言葉を大事に発言させた。また、思考を視覚化・比較化するのに、関連図を活用した。生徒の意欲を高めるために、CMや商品のキャッチフレーズの一覧を提示した。

##### (2) グループ討議で話題になったこと

コンパクトな単元にした点が良い。行事や生徒会、日常のある場面を教材化した点も良い。関連図は、他のところでも活用できる。関連図の項目は、場面によって変えることができる。例えば、生徒会選挙の演説に対する助言に活用できる。

##### (3) 指導者より

伝える力は、これから生きていくうえで大切なもの。このような単元を定期的に入れていくことが必要。また、評価の観点を絞ることが望ましい。話す・聞く力は日常生活で生きてこそその学習。こちらから提示する資料を工夫し、つける力に必要な準備に時間をかけないようにする。話し合い活動は、子どもたちのモチベーションが大事なので、関連図を使ったことは有効であった。

#### 附属長野中：古典に親しみながら自分の考えを豊かにしていく力を高める指導のあり方

##### (1) レポート発表

「毎日、兼好法師」と題し、カレンダー作りを設定した。徒然草117段を授業で扱い、生徒の思考の変化に着目し、意見交換をしながら追究していく。「古典作品とどのように出会えば、生徒の意欲を高めることはできるか」意見を求めた。

##### (2) グループ討議で話題になったこと

古典教材は、作者の人物紹介から入ると身近なものになる。今と昔の共通点・違いを考えることで興味をもつ。例えば「竹取物語」なら文末の「けり・ける」、「平家物語」なら耳なし芳一の読み聞かせ、「枕草子」なら紫式部の清少納言に対する批判から読み解いていくなど。また、今回の単元は「毎日、論語」でも活用できる。

##### (3) 指導者より

子どもたちが「何に興味を持っているのか」を捉えての教材化がすばらしい。「毎日修造」を基にしたこと、徒然草の章段の選択も子ども達の追究につながっていた。古典学習では、音読はもちろん、映像資料などを活用し古典を身近なものに感じさせるのも効果がある。「自分と重ねて読みの視点を持つ」のは、小学校2年生の学習から始まっている。子どもたちのこれまでの学習も把握していきたい。

#### 北御牧中：書けない生徒に何を伝えるべきか

##### (1) レポート発表

スクラップ作文を活用し、「説得力のある良い作文とは何か」を考える学習。説得力をもたせるために、「類推・対比・因果」などの観点を生徒に示し、考え方のツールとして捉えさせる。実際に生徒に書かせながら、作文力を伸ばす。

##### (2) グループ討議で話題になったこと

生徒が論理的に文章を書くようになった。観点があることで評価を明確になり、つけてほしい力が生徒にも伝わる。作文を自己採点させることで推敲する力にもなる。スクラップ作文は、新聞を読み、自ら課題を見つけ、まとめるという点がアクティブラーニングになる。

### (3) 指導者から

読むことと書くことを関連させて取り組ませるところがよい。説明文は、要約させるだけでなく、筆者の意図を考えさせる。作文も段階を踏んで、つける力を明確にする必要がある。例えば、意見文発表も「1年生：鑑賞文2年生：意見文3年生：批評文」のように、つける力を明確にし、教科書通りにやってみても良い。ていねいな指導が子どもたちの意欲に大きくつながっている。

## 鬼無里中：根拠を示しながら、自分の考えを伝え合う力を高める指導のあり方

### (1) レポート発表

説得力を増す作文にするには、どのような指導をすべきか。導入場面で、物件の間取りを提示した。その物件を、「どのような観点で見るか」という意識をもたせる。学習問題として「6月の祝日『〇〇の日』を考えよう」を設定し、まず新聞を読み比べる。次に、友だちの提案に対して、付箋で助言や反論を伝え、作文の構成を考えた。根拠を明らかにすることを大事にして行った授業。

### (2) グループ討議で話題になったこと

付箋で色分けして意見を出させたのは、視覚的にも分かりやすく、グループ活動の意欲にもつながる。学習問題・題材が魅力的なので、生徒自身の体験が反映することができた。更に追究させるために、現在ある祝日について調べ、自分の提案した日と比較させてもおもしろい。

### (3) 指導者から

小規模校で教科会が開けないが、他教科の先生や担任の先生とともに教材研究したことで、子どもたちの意識を大切に学習につながっている。題材が魅力的で新聞を読み比べた点も良かった。グループ追究・思考の流れが、1枚のカード（学習カード）で見られるよさがある。

## 西箕輪中：仲間と関わり合いながら主体的に取り組み、読みを深めたり、伝える力を高めたりする国語学習のあり方

### (1) レポート発表

目的は、図書館の本のポップを作り、実際に飾る。ポップの内容として、引用文「いちおしフレーズ」解説「紹介文」の二つの観点で作らせた。全員が一度、同じ教材「星の花が降るころに…」でポップを作る（平行読書）経験をさせた。

### (2) グループ討議で話題になったこと

人の目に触れ目的意識を高めることにつながる。実際に本屋さんでポップを作る人の話を聞くのも良い。評価するポイントは少なめに提示し、個人追究させる。多くの物語文の学習で活用できる。

### (3) 指導者から

国語の授業で、図書館を積極的に利用されている。ねらいをしっかりと持たせてから、活動に移ることが大事。ねらいを明確にすることで工夫や試行錯誤が始まり、生徒同士のかかわりもうまれる。生徒自身の課題意識を大事にして、活動させていくこと。

## 附属松本中：生徒が必要感を持って読み、考えを再構築するための支援

### (1) レポート発表

生徒の単元の終末の感想より深いものになるように、題名に着目して導入を工夫する授業を展開した。「つい買ってしまった本」を例に出し、自分の体験に重ね物語を読み、題名に着目させる。学習の振り返りとして、レポートを書かせることで、生徒の深い読み取りや思考が評価できる。テストの応用問題として出題するのも良いのではないか。

### (2) 指導者から（時間の関係で、グループ討議はなし）

題名に着目して読むことは、小学校3年生から、心情の読み取りで学んだことを一般化できるような授業につながっている。子どもたちがこれまで身に付けてきた学びを把握し、様々な視点から読んだことでどのように思考が深まったか、生徒の思考の深まりを、板書を、構造化し位置付けて、メタ認知できるようにしてほし

い。

(文責者 南牧村立南牧中学校 矢崎 貴臣)

### 【第3分科会】

#### 討議題Ⅰ 複数教材を扱う単元における授業づくりについて

##### 1 レポート発表

- (1) 「徒然草」の実践で、古典で自分とのかかわりを考え、古典に親しみながら自分の考えを豊かにしていく力を高める指導のあり方(附属長野中)
- (2) 短歌の実践で、絵を手立てとして短歌の意味を考え、友との関わりを通して自分の考えを深めていく国語の授業づくり(穂高西中)

##### 2 協議

- (1) 生徒の日常生活と古典を結びつけることで、より古典に興味をもち、自分の考えを形成していくことができる。
- (2) 教科書に載っている以外の段(たとえば117段)を扱うことで、兼好法師の人柄や生き方に触れることができる。
- (3) グループワークには「深める」「広げる」「高める」の3つがあり、「広げる」授業を「深める」授業にするためにはどうしたらいいのか。

##### 3 指導者の先生のご指導

複数の章段を示すことで、兼好法師の人間観がより表れるのでよい。学ぶことを焦点化することで、生徒の学びの方向性が決まるのでよい。グループワークでは、自分の意見をもった後で行い、「あの人はどう思っているの?」と生徒が思うことが大切である。深めるときに大切なことは、叙述や単語に着目して焦点化して読ませることが必要である。

#### 討議題Ⅱ 読む力を育む授業づくりについて

##### 1 レポート発表

- (1) 「ちょっと立ち止まって」の実践で、段落や文章の順序だてを理解するために、形式段落を並べ替える活動を行い、説明文を理解する。(清水中)
- (2) 「アイスプラネット」の実践で、どうして題名は「アイスプラネット」なのか考えることで、最初の考えと、最後の考えを見て、読み解きの変容を見る。(附属松本中)

##### 2 協議

- (1) 2年生の説明文においても、ちょっと立ち止まってで学んだ構成などがいきるので、1年生における「ダイコンは大きな根?」と「ちょっと立ち止まって」はとても大切である。
- (2) 最初と最後に同じ問いを書いてもらうことで、読みの変容を見ることができる。
- (3) 教師が学びを交通整理して、学びのプロセスを導いてあげることが必要である。

##### 3 指導者の先生のご指導

今回の説明文の授業では正しく並べ替えることが目的ではなく、根拠付けながら迷ったり考えたりする姿そのものが学びである。また、結論から序論と本論を考えるなど、説明文では様々な授業が考えられる。書くことに関しては限定をかけると思いが生まれる。読むことに関しては、生徒が考えをもち、交流させた時に、誰の考えが参考になったのかを書いてもらうことで、友との意見と関連づけて読むことができる。

#### 討議題Ⅲ 関わりの中で学び合う授業づくりについて

##### 1 レポート発表

- (1) 「大人になれなかった弟たちに…」の実践で、「弟たち」の意味をとらえた生徒がグループ活動を通して、題名に込めた作者の思いを考える(東御東部中)
- (2) 「方言と共通語」の実践で、生徒が方言を様々な方法で調べ、長野県の方言と比較しながら発表をする(川

上中)

- (3) 「開花」を書く書写の実践で、机をくっつけて、話し合いをしながら書く、グループ活動を通して行書の特徴をつかみ、行書を書く (広徳中)

## 2 協議

- (1) グループ活動では、「司会・タイムキーパー・記録係など」役割分担を決めて行うことで、より考えを整理することができる。
- (2) グループ活動は、助言や推敲、また協力しあったり、競争しあったりと様々な場面で行うことができるが、行うタイミングは大切である。
- (3) 国語で学んだ学びが他教科や他領域でいきいけばいいのではないかな。

## 3 指導者の先生のご指導

アクティブラーニングは思考がアクティブであることが大切なので、毎回の授業にグループ活動を入れなさいということではない。話し合いは手段であり、目的を明確にして話し合うことが大切である。国語の授業では、毎回の授業でつける力を明確にして、指導要領に沿っていることが大切である。

## 討議題Ⅳ 指導上の悩みや課題から

### 1 討議で出たキーワード

- ・違う立場の考えを聞き入り深めさせたいときはグルーピングを考える (基本は生活班)
- ・目的を明らかにする。話し合う観点を決める。
- ・目的に応じてメンバーや人数、役割を変えている。進行手順は黒板に示す。
- ・リーダー会を行ってグループにそれぞれ戻す。
- ・役割は基本的につけ、リーダーは必ずつける。(リーダーの決め方)

### 2 指導者の先生のご指導

つける力に沿って、生徒に役割がある発表でありたい。他者と話しながら、自分に寄せて考えることができるように焦点化させた授業でありたい。話し合いでは観点を絞り、意見が交流できるようにする。また一番考えさせたいところをみんなで考え合える授業でありたい。

(文責者 川上村立川上中学校 遠山 恒輝)

## V 本年度の反省と来年度の方向

### 1 本年度の反省

項目	内容
○本年度の研究テーマについて	・よい (14名) ・意識することができていなかった。 ・全体に周知しておいてもらいたい。(3名)
○研究の主な内容と研究の成果について	・よい (10名) ・他校の先生方の素晴らしい実践から多くのことを学べた。 ・各校のレポートをもとに日頃の悩みなどについて参考となるよい意見が聞けて、ありがたい。 ・様々な実践を聞けて、自分にはなかった視点を得られたように思う。自分でもやってみたいと思うものがあつた。 ・一つのテーマから様々な実践を教えていただき、勉強になる。
○研究の方法や経過について	・よい (6名)



○研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よい（４名）</li> <li>・申込書の訂正があつて、やや戸惑つたが、メールでの申込・書類送付は様式等も使えてよい。レポート提出やアンケートも以前よりシンプルになり、参加しやすくなつてゐると思う。</li> </ul>
○本年度運営全般について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よい。</li> <li>・分かりやすく当日まで困ることはなかつた。グループではなく少人数でできて、様々な意見交換ができて勉強になつた。</li> <li>・メールを使用した文書送付やレポート提出がとても助かつた。</li> <li>・色々なものがホームページに掲載されてあり、とても分かりやすく便利だつた。</li> <li>・参加者が少なく残念だが、その分、１つ１つの実践について詳しく聞けてよい。</li> <li>・大変勉強になるよい機会。</li> <li>・分科会構成アンケートをメールで配信していただけるのは参考になり、ありがたいが、参加者の年齢まで他の人に分かつてしまうのは嬉しくない。</li> <li>・メールだと分かりにくい。学校宛にしていただけるとありがたい。</li> <li>・前日までのHPで分科会の構成が参加する学校名しか書かれてゐなかつたので、氏名も書いていただけるとありがたい。</li> <li>・もう少し多くの先生方にご参加いただきたい。</li> </ul>

## 2 来年度の方向

○来年度の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続でよい。</li> <li>・主体的という方向は外せない（外してほしくない）。</li> <li>・今年度のテーマは多岐に方向が広がるテーマなので、参加しやすくてよい。絞り込みすぎると構えてしまうので、今年度のようによい。</li> <li>・アクティブラーニングの視点に迫っていける視点がよい。</li> <li>・アクティブラーニングにもつながる部分なので、このままでよい。</li> <li>・あまり単元として設定しない「話す・聞く」についてがよい。</li> <li>・教科書や指導要領の改訂に伴う様々な課題に沿つたテーマがよい。</li> <li>・グループ活動に関して。</li> </ul>
○来年度の研究の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続でよい。</li> <li>・つきたい力に沿つた言語活動の設定と、その手立てについて。</li> <li>・生徒が主体的に学ぶため、学習の目的意識を明確にもつことができるような手立て。</li> <li>・思わず話したくなる課題設定とは。</li> </ul>
○来年度の研究の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続でよい。</li> <li>・単独の単元にとどまらず、年間を通して系統的に研究していける内容もあるとよい。</li> <li>・グループ討議で、他のグループの先生方とも討議する機会があるとありがたい。他のグループでの細かい意見や指導もほしい。</li> </ul>
○その他、改善したい点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者がもっといとよい。</li> <li>・学校への周知の方法。知らされていないのでは。会議等でも扱われてゐないのでは。</li> </ul>

## VI あとがき

11月18日（金）、県下各地からお集まりいただいた先生方の熱心な発表と討議により、長野県中学校連合教科研究会を大きな成果をあげて終えることができました。終日にわたる研究会において、終始、温かく示唆に富んだご指導、ご助言をくださいました、指導者の小野澤健先生、千野布美子先生、富山哲矢先生に心から御礼申し上げます。また、綿密な司会計画を立て、討議を深め、研究会を実り多きものにしてくださった、司会者の山口学先生、高橋加奈先生、佐々木清一郎先生、ご多用の中、当日の記録及び研究集録のまとめにご尽力いただいた記録者の松林圭祐先生、矢崎貴臣先生、遠山恒輝先生に深く感謝申し上げます。世話係の先生方には、準備から当日の細部にまで気を配っていただき、円滑な運営に陰の力としてご尽力いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。さらに、ご参会の先生方には、レポートを持ち寄り、多数の貴重な実践を基にしながら、熱心にご協議くださり、この会を終始、盛り上げていただきました。ここに、ご参会のすべての先生方の、今後の一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼といたします。ありがとうございました。

教科委員長 阿部 考彰  
副委員長 戸塚 拓也